開館一周年記念　企画展

天野家の雛祭り

さいたま市岩槻人形博物館

人形が彩る商家の暮らし

天野家が教えてくれる雛祭りの楽しさ

さいたま市岩槻人形博物館は今年2月に開館一周年を迎えた。岩槻を代表とする公立博物館として、存在感を増している。

開館一周年記念として企画されたのが「天野家の雛祭り」だ。当初の会期は延期となり、3月23日㈫から5月5日㈷までの間、開催された。

平成30（２０１８）年、同館に天野家より約６００の人形及び関連資料が寄贈された。同展では、日本橋の老舗人形店・永徳斎で誂えた節句人形をはじめ、御所人形や衣裳人形、百貨店で頒布された極小の玩具など、これまで大切に保管されてきた人形の数々が初めて公開された。

同館の担当学芸員は「人形とともに残っていたのが、雛祭りの時に撮影されたものなど、当時を物語る多くの写真です。天野家の皆さんが雛祭りを楽しんでいた様子がよく分かります」と話す。

昭和２（１９２７）年の日米親善人形交流の「答礼人形」製作で活躍した二代瀧澤光龍斎が作ったと思われる市松人形の写真も展示されている。よく見ると、同館に寄贈された市松人形が着ている衣裳とは異なる。

「夏物の着物もあり、季節ごとに着せ替えていたようです。天野家の方が訪れた際、『うちにあった人形！』と大変お喜びになっていたのが印象に残っています。人形好きだったおばあ様が集められたミニチュア玩具も、色あせずに綺麗で、保管状態が非常に良いです。大切にされていたことがよく分かります」（学芸員）。

今回公開されたのは主に六代天野源七が子どものために誂えさせた雛人形。六代目の祖父にあたる四代天野源七は武蔵国岩槻（現在の岩槻区）の出身。曾孫の人形が、岩槻に開館した博物館に寄贈されたことを喜んでいるに違いない。天野家の人形に再び会える機会を楽しみにしたい。

当時大ヒットした化粧水「ヘチマコロン」！

「ヘチマコロン」化粧水の瓶。初代天野源七は、日本橋横山町に「小間物卸近江屋源七」を開業。以来、江戸を代表する小間物商となった。石けん製造業を営む安永英雄が発案した「ヘチマコロン」は天野源七商店を通じて大正４（１９１５）年に発売され、ヒット商品となった。

“広告第一主義”を掲げた同店。新聞や雑誌、看板等さまざまな宣伝活動を展開した。写真は浅草橋にあった「ヘチマコロン」の看板。昭和時代初期（吉徳資料室蔵）。

さいたま市岩槻人形博物館

IWATSUKI NINGYO MUSEUM

〒339-0057 埼玉県さいたま市岩槻区本町6-1-1
Tel.048-749-0222　　Fax.048-749-0225

開館時間● ９時～ 17 時（入館は閉館時刻の 30 分前まで）
休 館 日●月曜日
WEBサイト● https://ningyo-muse.jp/
※開館日・時間などは事前に上記 WEB サイトでご確認ください

天野家雛段
大正～昭和時代

最上段に飾られた内裏雛は六代源七の娘たちのもの。左から朝子（三女）、芳枝（長女）、郁子（次女）所有。戦後に初節句を迎えた朝子。当時は用意できなかったが、数年後に誂えられた。雛人形は全て永徳斎製。

雛道具　化粧道具・衣桁
昭和時代初期

黒漆地に金蒔絵で牡丹唐草文様が施された雛道具。日本橋の老舗、黒江屋で誂えたもの。

市松人形 男子・女子
大正時代

京都の人形店・けうゑや（並河人形店）で誂えた。

御所人形　春駒
明治時代後期～昭和時代初期

次回展覧会のお知らせ　企画展「御所人形―輝く肌の魅力」

次回予告

御所人形は、その愛くるしい姿が子孫繁栄のシンボルとされ、宮中や公家、大名や武家など、上層の人々の間で贈答品として重用されてきた。企画展「御所人形―輝く肌の魅力」では、御所人形によく似た裸嵯峨、からくりや三ツ折の仕掛けがある御所人形をはじめ、さまざまな種類の御所人形が展示される予定。乞うご期待！

会　期●令和3年7月17日(土)～8月29日(日)
休館日●月曜日※8月9日（月・休）は開館

御所人形 裸童 江戸時代